

# あいな 里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～

第26号  
2007年2月発行



## トピックス

- 現場見学会・茅刈り体験会
- 第8回あいな里山まつり
- 里山の四季
- 四季の写真
- あいな里山公園における環境教育とは

## 新年のあいさつ

本年、最初のあいな里山公園情報をお届けします。既に新春のご挨拶をする時期は過ぎてしましましたが、遅ればせながら、本年も宜しくお願ひいたします。

季節は最も寒い時期を迎え、藍那を通り抜ける冷たい風は、毎日のようにやってきます。私達が寒そうに山を歩いていても、鳥や虫達は寒さを楽しむかのように飛びまわっています。

雪が舞い、時には積もある事もある藍那の里山。時折見せる雪化粧は、美しくもあり、自然の厳しさを感じさせてくれる景色でもあります。

## 製作・発行

国営明石海峡公園事務所 神戸地区現場事務所  
〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字伝庫14  
TEL(078)593-3943 FAX(078)593-3944  
kobe@kokueiakashi.go.jp  
<http://www.kokueiakashi.go.jp>

隣の白川村では、朝廷に献上されたと、文獻にも記されているそうです。

隣の白川村では、朝廷に献上されたと、文獻にも記されているそうです。

隣の白川村では、朝廷に献上されたと、文獻にも記されているそうです。

隣の白川村では、朝廷に献上されたと、文獻にも記されているそうです。



容赦なく繁茂する草。葉の色も濃くなります。周囲を覆いつくす笹は、ますます勢いを増し、ため池が隠れてしまいそうなほどです。

気温の上昇と共に、草花の勢いが増します。写真手前の土の部分は、水道管埋設の跡。星和台から、棚田ゾーンまで繋げられました。

## あいな里山公園における環境教育とは～実践事例の紹介（その1）～

環境教育は「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律（通称・環境教育推進法、2003年）」が施行され、各地で推進されている。今回からはいくつかの学校で実践されている事例を紹介してみたい。

環境教育は地域、社会、コミュニティーが共有しているマテリアルを活用しておこなうことができる。あいな里山公園においても「あいな炭焼くらぶ」が活動を続けているが、それは炭焼きに関する環境教育の実践であるといえよう。作業は、火入れから炭出しまでの一連の工程を体験することができ、ものづくりの喜びや里山の伝統文化を学べる。

炭焼きを教材とした環境教育の実践事例としては、例えば夷隅郡大多喜町立老川小学校（千葉県）では、炭焼体験を通して子どもを育成するプログラムがおこなわれている。この実践では、ふるさとの人と自然との関わりと郷土を理解し、森林の大切さを地球全体の規模で考える環境教育が目指されている。この実践の成果は、炭焼き体験によって、人と自然との共生やふるさとの伝統の大切さに子どもたちが気付いたことである。そして、植樹から炭出しまでの一連の里山循環の作業を通して森林の大切さを知り、生態系を支える森林に対する

意識が高まった、と報告されている。

また、南安曇郡安曇村立安曇小学校（長野県）では「炭で川を浄化する体験活動」がおこなわれている。教科としては、社会の学習「私たちの飲み水の行方」で地元の河川を見学し、きれいだと思っていた川が、実は水は淀み、生活雑排水で悪臭を放っていることに気づいた。「川は死んでいる」という思いを共有し、そこから「川をきれいにするためには」という学習課題で調査が始まった。子どもたちは「炭が川をきれいにするらしい」という教師の投げかけに応え、炭で川を浄化する活動が開始された。まず炭を焼く計画がたてられ、小屋を建て、窯をつくるための材料集めが、保護者の支援とともに、子どもたちの手でおこなわれた。このように計画、準備、進行、すべてが子どもたちに任されることによって、自分の力で行動し学習することを身に付けたと報告されている。

このように地域の教材を生かし、お年寄りや保護者との交流や協力を通して、自然と人との関わり、故郷の伝統や文化に気付くことによって、心豊かな子どもたちを育てることが環境教育の目的の一つである。

甲南大学環境総合研究所 所長 谷口文章

◆次回の発行は3月中旬頃の予定です

# 現場見学会・茅刈り体験会

かつて身近だった茅



茅刈り体験のようす

今回、鎌を持って刈り取るのはススキです。地域によっては、オギ。ヨシ、藁、そして笹も屋根の材料として使っていたそうで、これらの材料を総称して「茅」と呼んでいるのです。

茅刈り体験会ですが、昨年葺きあがった茅葺きの交流民家。維持していくには、定期的な屋根の葺き替えと、その材となる茅場の管理が不可欠です。

茅場は、毎年の茅刈り作業が必要となり、今年も星和台小学校とボーリスカウトの方に参加して頂き、現地の見学を兼ねた茅刈り体験会を1月14日に実施しました。

茅場は、毎年ススキを刈り取る作業も、それを束ねにく作業も、おそらくほとんどの方が初めての経験だった様です。茅葺き職人さんは

ススキを刈り取る作業も、それを束ねにく作業も、おそらくほとんどの方が初めての経験だった様です。茅葺き職人さんは

ススキを刈り取る作業も、それを束ねにく作業も、おそらくほとんどの方が初めての経験だった様です。これが、最近ではなかなか見かけなくなってきたいるカヤネズミの巣。カヤネズミは、親指の先ほどの小さなネズミで、ススキ原の減少に伴って、生息地も限られてきています。

そんな貴重なカヤネズミの巣。神戸地区で



カヤネズミの巣

手際よく刈り取り、素早く綺麗な茅束にしていきますが、ススキの刈り取りは見た目よりも重労働。茅を束ねるのも、まっすぐに揃つた茅束を作るのは、結構コツがいるんです。

大人たちが作業に慣れてきた頃、子ども達は他のモノに興味を示し始めました。

それはソフトボールぐらいの大きさで、枯れた葉っぱで出来た、小さな生き物の巣。これが、最近ではなくて見かけなくなってきたいるカヤネズミの巣。カヤネズミは、親指の先ほどの小さなネズミで、ススキ原の減少に伴って、生息地も限られてきています。

「にう」から屋根へ

今回は、屋根になるまでの過程を体験していただくことは出来ませんでしたが、刈った茅は、立てかけて乾燥させておく「にう」の

個発見することが出来ました。

は茅場の復活と共に、毎年のように、いくつも発見されるようになります。この日も、30人ほどで、3時間くらいの作業でしたが、5、6個発見することが出来ました。

形まで作っていただきました。組み立てた「にう」の横には、昨年葺いた茅葺の交流民家。現在に生きる子どもからは、「この屋根で

は茅場の復活と共に、毎年のように、いくつも発見されるようになります。

茅葺の交流民家。現在に生きる子どもからは、「この屋根で

雨は大丈夫なの?」と聞かれる事もありますが、交流民家は、今年の雪にもしっかりと耐え、凜々しく、私たちに温かい姿を、私たちに見せてくれます。



雪にも負けない茅葺屋根(H19.1.7撮影)



みんなでつくろう! みんなであそぼう!

◆会場には駐車場がありませんので公共交通機関を使って御来場ください。  
◆神戸電鉄「藍那駅」へは、阪急、阪神、山陽を御利用のうえ「新開地駅」でお乗り換えください。  
◆一部足元が悪くなっている場所もありますのでご注意のうえ、あらかじめ歩きやすいお履物にて御来場ください。

【問い合わせ】FAX:078-252-3303  
【当日問い合わせ】078-593-3943(am8:00~11:00)

◆日時 平成19年3月3日(土)午前10時~午後3時/雨天順延(3月4日)  
◆場所 国営明石海峡公園神戸地区「あいな里山まつり」特設会場  
◆参加費無料・申込不要(但し会場内の飲食・物販のお店は各有料です)  
◆主催 第8回あいな里山まつり実行委員会・国営明石海峡公園事務所

多くの方から問い合わせを頂いていた、あいな里山まつりですが開催日が3月3日に決まり、今年も市民による実行委員会によって運営される事になりました。

今年は、棚田ゾーンで色々な工事が行われているため、主会場は昨年より東側の棚田になります。

舞台での催しやワークショップに加えて、今年度のアクションリサーチ活動で綺麗に整備された展望山(神戸地区内で最も標高が高く、見晴らしの良い山)も見所のひとつに

季節により、様々な表情を見せてくれる自然。藍那の里山も、一年を通してみると、その移ろいが良く分かります。また、公園として整備中という事もあり、造られている様子もご覧いただけるかと

春、芽吹きを待ちわびた木々達が、少しずつ緑を濃くしていき、夏、照りつける太陽の下、暑さを喜ぶかのように葉を広げていきます。秋、その色を緑か

ら黄色へと変化させ、冬、再び土に返ろうとしていきます。

この自然のサイクルは、公園が出来てからも楽しみの一つとなる事と思います。ごく当たり前のよう季節が過ぎ、花が咲き、鳥が飛来し、筍や山菜など飛来し、筍や山菜などを楽しむ事になります。裏面の写真を見て頂くと、季節の変化だけでなく工事や活動の様子も良く分かると思います。

秋から冬にかけて、地形がはっきり分かるようになつたのは、工事の造成だけでなく、活動団体の皆さんの笠刈りのお陰です。綺麗に刈り取られ、地面まで光が差し込むようになつた斜面からは、この春、昨年には見られなかつた自然に巡り会えるかも知れません。



第7回あいな里山まつりのようす



ステージイベント、和太鼓演奏のようす